米朝、威嚇の応酬　大規模爆弾・核実験強行姿勢…

2017/4/15 0:54 | 日本経済新聞　電子版

【ワシントン＝永沢毅、ソウル＝山田健一】米国と北朝鮮が威嚇の応酬を繰り広げている。トランプ米大統領は13日「北朝鮮は問題であり対処する」とし、米国の安全保障を脅かす核ミサイルの開発・配備を阻む意思を改めて示した。国営メディアの朝鮮中央通信は14日「あらゆる挑発を我が軍隊と人民の超強硬対応で粉砕する」と米国に警告する軍の声明を伝えた。北朝鮮は故金日成主席の生誕105年を迎える15日に軍事的な挑発に出かねず、情勢は緊迫の度を増してきた。

米軍は13日、通常兵器として最強の破壊力を持つ大規模爆風爆弾（ＭＯＡＢ）をアフガニスタンに投下。過激派組織「イスラム国」（ＩＳ）が使うトンネル施設を破壊した。トランプ氏は同日「北朝鮮へのメッセージになったかどうかは分からない」とし、北朝鮮の地下軍事施設に同爆弾を使う可能性を示唆した。

米政権が北朝鮮に神経をとがらせるのは、米本土を射程に入れ、核弾頭を搭載できる大陸間弾道ミサイル（ＩＣＢＭ）を開発しているためだ。ポンペオ米中央情報局（ＣＩＡ）長官は13日、核ミサイルを手に入れる脅威が「かつてないくらいに近づいている」と述べ、警戒感を示した。

米ＮＢＣニュースは同日、北朝鮮が2016年９月以来、６回目の核実験に踏み切る場合、米軍が通常兵器で先制攻撃する準備に入ったと報じた。米情報機関の話として伝えた。先のシリア攻撃で使った巡航ミサイル、トマホークを発射できる軍艦を朝鮮半島の近海に展開させているという。米政権は、15日前後に予想される北朝鮮の挑発行動をけん制するため、空母カール・ビンソンを朝鮮半島近海に向かわせた。

一方、北朝鮮は核実験を強行する姿勢を強めている。北朝鮮外務省の韓成烈（ハン・ソンリョル）次官は14日、ＡＰ通信に「最高指導部が適切と判断した時期にいつでも実施する」と述べ、金正恩（キム・ジョンウン）委員長の指示で即座に実行

する意思を示した。北朝鮮の批判を繰り返すトランプ氏こそが「トラブルを起こしている」と主張し、核実験を継続する構えをみせた。

軍総参謀部は米空母の派遣に強く反発。「核攻撃手段を含む万端の準備態勢を維持している」としたうえで、在日・在韓の米軍基地や米本土まで「戦略ロケット軍の照準器に入っている」と米政権を威嚇した。

ただ、米国に向けた激しい言葉とは裏腹に、北朝鮮が最高指導者の正恩氏の体制維持を最優先しているのも事実。武力挑発を繰り返してきた本来の目的は、米国と交渉のテーブルに着いて金正恩体制存続の「保証」を手にすることだった。

軍総参謀部の声明や韓次官発言の骨格は「米国が攻撃すれば、北朝鮮は応戦する」という内容の仮定形になっている。逆に米国が攻撃しなければ、北朝鮮は動かないとの意思を暗に示したとも読める。米軍は装備の質など実力が朝鮮人民軍を圧倒している。

中国の仲介で米朝緊張を打開するとの見立ても外交筋でささやかれる。トランプ氏は13日に「習（近平・中国国家主席）氏が好きだ。尊敬している。特別な男だ」と持ち上げた。北朝鮮問題について「一生懸命やると思う」とも語り、習氏に期待感を示した。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.